

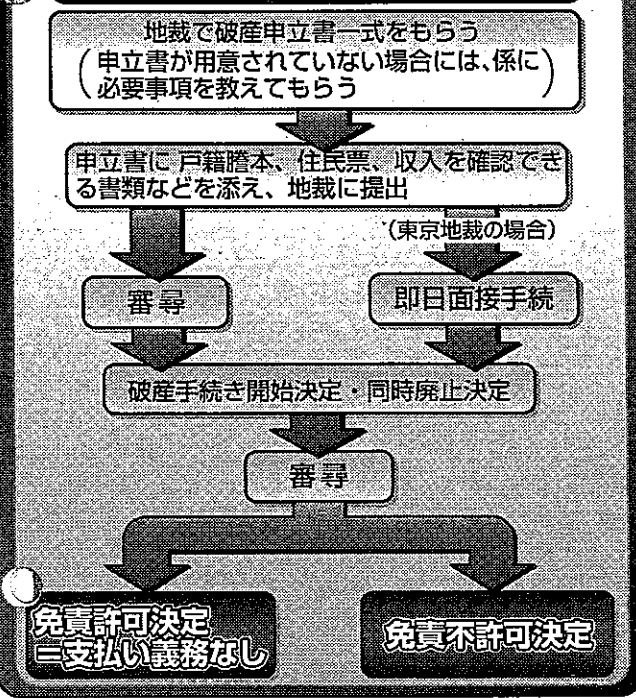
00部という具合に書店経由で買っています」
 こうした本の購入資金も、もちろん違法なグレーゾーン金利を支払わされてきたサラ金利用者の返済金からまかなわれている。つまり借主に頼らざるを得ない経済的弱者から違法な金利を吸い上げるサラ金業者に、銀行・生保・外資、さらには政治家・官僚が群がってきたのだ。この大きな資金吸収システムの最大の被害者が多重債務者と言えらるだろう。

夫にもバレずに自己破産

これ以上彼らに資金を吸い取られないためにはどんな防衛策をとるべきか。究極の策が「自己破産」だ。現在、西日本のある地方都市に住む村井春菜さん(34歳・仮名)は、2年ほど前に自己破産した。

「大企業の孫請け会社で働く主人の給料と私のパート代では、家賃と主人の仕事に必要な車のローンを支払うと、生活するのにギリギリでした。そんなとき私が2人目を妊娠して働けなくなりました……」
 生活費が足りないという夫にはいえず、内緒でサラ金に手を出した。1年後にはヤミ金も含め9社から150万円ほどを借りていた。す

自分でできる自己破産手続き



ぐに返済は行き詰まった。この頃、村井さんは弁護士を介さず自己破産の手続きができることを知る。

「裁判所の方に教えてもらいながら書類を揃えましたが、弁護士に頼めば数十万円必要でしょうけど、自分でやったので費用はほんのわずかで済んだ。その結果、すべての借金は帳消しになったんです」

では自分の手で自己破産するためには、どのような手続きが必要なのか。不動産のようなめぼしい財産を持っていない人、持っている人の場合で手順は違う。財産がある場合は、管財人を立て資産を売却し、債権者に分配するという過程が入ってくる。生活必需品程度の財産なら、管財人は必要ない。ここでは、めぼしい財産を持たない場合について説明しよう。

裁判所に出向くことからすべてが始まる。ここでは、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。

この書類に、借金やローンの借入先やその残高、あなた自身の財産目録、破産申し立てをするに至った事情や家計状況などを記入する。この

場所を管轄する地方裁判所に出向くこと

からすべてが始まる。そこには、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。

この書類に、借金やローンの借入先やその残高、あなた自身の財産目録、破産申し立てをするに至った事情や家計状況などを記入する。この

場所を管轄する地方裁判所に出向くこと

からすべてが始まる。そこには、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。

この書類に、借金やローンの借入先やその残高、あなた自身の財産目録、破産申し立てをするに至った事情や家計状況などを記入する。この

場所を管轄する地方裁判所に出向くこと

からすべてが始まる。そこには、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。

この書類に、借金やローンの借入先やその残高、あなた自身の財産目録、破産申し立てをするに至った事情や家計状況などを記入する。この

場所を管轄する地方裁判所に出向くこと

からすべてが始まる。そこには、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。

「法テラス」に相談を

さて、申し立てをしてしばらくすると、地裁に出頭して、裁判官から口頭で質問を受けることになる。これが「審尋」だ。時間はだいたい5〜10分。申立書がしっかり書けていればまず心配はない。

自己破産の申し立てをしたことが銀行にバレると、口座を凍結され、口座への入金を借金の返済に回されることがあるからだ。

「裁判所の方に教えてもらいながら書類を揃えましたが、弁護士に頼めば数十万円必要でしょうけど、自分でやったので費用はほんのわずかで済んだ。その結果、すべての借金は帳消しになったんです」

では自分の手で自己破産するためには、どのような手続きが必要なのか。不動産のようなめぼしい財産を持っていない人、持っている人の場合で手順は違う。財産がある場合は、管財人を立て資産を売却し、債権者に分配するという過程が入ってくる。生活必需品程度の財産なら、管財人は必要ない。ここでは、めぼしい財産を持たない場合について説明しよう。

裁判所に出向くことからすべてが始まる。そこには、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。



野村誠一
 1973年12月19日、東京都生まれ。映画『口裂け女』(来春公開)、『福娘』、『悲しみの聲を聞かせろ』(来夏公開)に主演。文筆家としても活躍し、雑誌『KING』で『サトウの5分で読める純文学』を連載中

「ある日の人助け」

この間、喫茶店で隣の席の夫婦が口喧嘩をしてたんです。奥さんは妊婦だったから、「赤ちゃんの心に悪いですよ」って話しかけた。そして、「大きな赤ちゃん」ってお腹を触ったの。強引だったけど、二人の喧嘩は収まりました。

「裁判所の方に教えてもらいながら書類を揃えましたが、弁護士に頼めば数十万円必要でしょうけど、自分でやったので費用はほんのわずかで済んだ。その結果、すべての借金は帳消しになったんです」

では自分の手で自己破産するためには、どのような手続きが必要なのか。不動産のようなめぼしい財産を持っていない人、持っている人の場合で手順は違う。財産がある場合は、管財人を立て資産を売却し、債権者に分配するという過程が入ってくる。生活必需品程度の財産なら、管財人は必要ない。ここでは、めぼしい財産を持たない場合について説明しよう。

裁判所に出向くことからすべてが始まる。そこには、自己破産を申し立てるのに必要な「自己破産手続き開始・免責許可申立書」(以下、申立書)という書類が用意されているはずだ。